

茂木敏充衆議院議員との対談 第3回

全4回

衆議院議員 茂木敏充 氏

開倫塾塾長 林明夫

林： お早うございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴き頂きましてありがとうございます。今回も先週に引き続いて、衆議院議員であられ、また衆議院の厚生労働委員長にご就任になさいました、茂木敏充先生をゲストでお招きしております。先生、宜しくお願ひ致します。

茂木： お早うございます。宜しくお願ひ致します。

林： 先生にはですね、国会の、国政の状況とか年金問題、社会保障についてお話を伺っています。今日はその3回目です。今日はいよいよ年金問題についてお伺いしたいのですけれども。昨年来ですね、年金の記録問題がずっと取り上げられていますけれども、これもですね、国会では茂木敏充先生が委員長を務める厚生労働委員会のテーマですね。

茂木： そうですね。昨年の5月くらいから、例の5000万件の年金の記録がきちんと国民の基礎年金番号に統合されていないじゃないか、とこういう・・・いわゆる「浮いた年金」とか「消えた年金」 こういう問題がクローズアップされていて、正に林さんがおっしゃるように、年金問題 厚生労働委員会の所管であるし、最大のテーマだと、こんな風に思っています。何しろ1億人年金記録について社会保険庁がこれまで何十年もの間、本当にずさんな管理というものをしてきたわけですね。これを一気に直す、というか解決しなければならない。本当に大変大きな問題だ、とこんな風に思っています。

林： 今、茂木先生がおっしゃったように、1億人の記録の再整理、とお聞きしますと本当に気の遠くなるような作業だと思うのですけれども、具体的にどのようにこの年金記録問題を解決していくわけでしょうか。

茂木： 解決には大きく2つのポイントがある、とこういう風に考えております。まず1つは、国民一人ひとりにちょうど10年前から、基礎年金番号というのを付けたわけです。この基礎年金番号にまだ未統合のあの5000万件年金記録、これを名寄せしていく。つまり、5000万件の今、誰の記録か分からない記録を それぞれ、林さんの記録は林さんの記録。田中さんの記録は田中さんの記録、とこういったことで照合していく作業。これが1つあります。次に、全ての年金受給者 これが今、3000万人います。これから年金を受け取る加入者 これが6000万人いらっしゃるわけですけれども、こういった方々にご自身の加入の履歴をお知らせし、ご自身で記録が間違っていないかチェックして頂くために、今年は「ねんきん特別便」、これを全国民に送付することに致しました。何しろ、ご本人に間違っているか、間違っていないか、確認して頂くのが一番確かなわけですから。それから年金の5000万件の名寄せの問題ですけれども、これは今年の3月までに作業を完了して、「ねんきん特別便」の送付につきましては、今年の10月までに実施す

る、とこういうスケジュールで作業を進めているところでもあります。まず、「特別便」について申し上げると3月までの間は、加入履歴に誤りがありそうな人中心に送ると、ですから3月までに「特別便」が届いたら、とくにチェックを、注意して頂きたい、こういう風に思います。それから4月、5月の間で今年金をもらっている受給者3000万人の方、そして6月から10月にかけて全加入者6000万人の方に「ねんきん特別便」お知らせを送付する、こんな風になっています。

林： 今、お話をお聞きしていると、膨大な作業ですけれども、茂木敏充先生から見て、上手に作業は進んでいると、お考えでしょうか。

茂木： 社会保険庁という官庁を見ていますと、計画通りものを進めるのが本当に苦手、とこんな風に思っています。率直に言って、今申し上げた作業のペース、それからお知らせの丁寧さもまだまだだと思っています。年金の特別便の実物を見たのですけれども、お年寄りじゃこれで分かるのかな、とこういうところもありました。変えていく部分は変えなくてはいけない、このまま社会保険庁だけに任せておいてもいつになっても問題が解決しないのではないかと、とこういう懸念もありますので、今度自民党の中に、「年金行政改革議員連盟」というのを作りまして、政治の側からも作業プロセスをしっかりとチェックをして、改善すべき点は改善。こういうことで今、進めています。この「年金行政改革議員連盟」でも、私に幹事長を、ということで中心メンバーということで、改めて責任が重大だな、とこんな風に思っております。

林： 宜しくお願ひしたいと思ひます。茂木敏充先生は、何年も前から社会保険庁の問題をご指摘して頂いていましたけれども、とにかく色々な人の話を聞いてもですね、社会保険庁というのはもしかしたら、不親切で問題が多いような気が致しますけれども。

茂木： 一言で言うと、一つの家庭で言ったら、片付けが出来ない家庭なんです。整理整頓が出来ない、家族中で脱いだら脱ぎっ放し、置いたら置きっ放し・・・、もうぐちゃぐちゃになっている。これが社会保険庁です。それから社会保険庁の窓口に行かれた方・・・今このラジオを聴かれている中でもいらっしゃるかと思うのですけれども、決して「対応が良かった。」という人は少ないのではないかな、とこんな風に思っています。今の組織のままでは駄目だ、ということも私も何年も前から、林さんがおっしゃるように、指摘をしております。そこで社会保険庁についてはですね、解体をするということに決めさせて頂きました。今、準備期間でありまして、2年後からは新しい組織になります。これまでの社会保険庁で言いますと、職員は国家公務員だったんです。それを今度は非公務員型にしまして、まず、職員の意識改革。これが何よりも大切だと思っています。窓口業務もそうなのですが、親切で分かり易いお知らせであったりとか、相談への丁寧な対応、こういった国民の立場に立った、さらに受給者・加入者の立場にたったサービスの向上を図っていくと、こういうことが必要にだと思ひます。さらに今、社会保険庁でですね、職員が17000人もいるんですよ。恐らく業務のやり方を見直したら、もっともっと少ない数で出来る。こんな風に思っています。職員の数も大幅に減らしてですね、スリムで効率的な組織にしていきたい、こんな風に思っています。

林： 茂木敏充先生は、国会議員になられる前にマッキンゼーの上席コンサルタントをなさっていましたけれども、コンサルタントの先生からみてもちょっと物足りない感じですか。

茂木： ちょっとどころか、相当物足りないというかですね、もし、コンサルタントとして中に入ったら、相当抜本的な改革をしなくちゃいけない、と思っていますけれども。やはり、民間的な目線で変えていくと、もっと効率化出来るところは沢山ありますから。そしてこの運営が効率化することによって、本来その年金の無駄遣いも無くなっていくと、そして、お一人おひとりの方に正しい年金がしっかりと支払われるようになると、こういう形でやはりこの作業 何年かかかりますけれども、これは国民生活に一番密着する大切な問題、老後の不安を解消する意味でも、大切な問題と思っていますから、しっかりと取り組みたいと思っています。

林： 有難うございます。社会保険庁の改革は、茂木敏充先生がずっとご指摘頂いた問題ですから、しっかり改革して頂くことをご期待申し上げます。今日は4回シリーズの茂木敏充先生からのお話の、3回目として年金問題についてお話をお伺いしました。先生、有難うございました。

茂木： 有難うございました。